

## 16. データを活用した繁殖成績向上の取組 (クラウド型繁殖管理システムmoopadを用いて)

西部振興局・<sup>1)</sup>玖珠家畜保健衛生所

○小野翔馬・田中伸幸・手塚溪<sup>1)</sup>・池堂智信<sup>1)</sup>

### 【背景・目的】

大分県の子取り用雌牛頭数は2020年2月現在約17,200頭であり、大分県肉用牛振興計画の分娩間隔408日から計算すると年間生産子牛は約15,400頭で、自家保留率を15%とすると年間市場上場頭数は約13,000頭と推計される。しかし、子牛の2019年の年間市場上場頭数は約9,700頭で、3,300頭少なく、事故率を勘案しても大きな差がある。原因としては分娩間隔には分娩していない母牛のデータは含まれておらず、リピートブリーダー等の潜在的な問題点が考えられる。改善には繁殖状況の整理と問題点の把握が重要であるが、肉用牛経営において繁殖に関するデータを整理している農家は少なく、酪農経営のように牛群検定などの集約されたデータが乏しいのが現状である。そこで、クラウド型繁殖管理システム「moopad」を用いて授精や分娩、発情発見日などを農家が記録することで繁殖に関するデータを蓄積、分析し問題点の把握と繁殖成績改善へ向けた取組を行った。

### 【取組内容・事例】

管内農家でmoopadを利用しデータを蓄積、クラウド上にて関係機関でデータを共有し、分析・問題点の把握を行った。併せて、畜舎の環境や飼料給与量の調査を行い多角的にデータの収集を行った。取組の中で、ある時期から急激に繁殖成績が悪化し原因が分からないという農家があった。moopadで確認すると授精回数が増加し、リピートブリーダーが多く存在した。そのため、振興局では飼料分析、家保では代謝プロファイルテストを行い詳細に原因究明を行った。飼料分析では硝酸態窒素が高い数値を示し、給与量調査より充足率を計算したところCPが非常に高く肝臓に負荷がかかっていた。血液検査では飼料分析結果を裏付けるようにビタミンA・βカロテンの数値が低く、BUNやGOT、GGT数値が高値であった。このことから飼料給与メニューの改善指導を行い、現在繁殖成績改善に向けて動き出したところである。

### 【まとめ・今後の展望】

moopadを利用することで、データを関係機関と共有し整理・分析・問題の把握・改善を連携して効率的に行っていくことができた。そのため、データ整理による問題点の把握から改善指導までの大幅なスピードアップが図られ、ポイントを絞った解決策の協議を行うことができた。肉用牛経営においてデータを活用した指導の重要性を農家・技術者がともに認識することが重要である。moopadは現在管内で12戸430頭（頭数ベースで約1割）が利用中である。和牛登録協会との連携で育種価シミュレーションができる点など特徴を説明し、今後も利用拡大に向けて支援・指導を行い、こうした取組を続けることで、管内繁殖成績を向上させ生産基盤の強化に繋げていく。